



まひる

千畑小学校 学校報 第24号 2020.10.15

学校教育目標

夢ここに つながる心 輝くひとみ

後期が始まりました。 よろしくお願いします！

10月14日から後期が始まりました。期間は、3月19日（6年生は16日）までとなります。始業式では、伸び伸びと校歌を歌い集中して式に参加する姿が見られ、後期への意気込みを感じました。児童を代表して、5年生の S. ○○ さんが、後期にがんばりたいことを発表してくれました。毎日の学習の復習をしっかりとやっ



ていくこと。体力づくりも心がけ、友達や下級生に優しくしていきたいことを発表してくれました。また、あと半年となった6年生に向かって準備していくことを意識し、物事に積極的に取り組んでいきたいという思いを紹介してくれました。

これからは、学習に落ち着いて取り組むことができる時期です。子供たちには、前期に付けた様々な力を生かして、自分のよさや好きなこと、得意なことなどを伸ばし高めていってほしいものです。豊かでたくましい心、しっかりと学ぶ力を身に付けていくことができるように、職員一同がんばってまいりますので、今後ともご支援ご協力くださいますようお願いいたします。



10月も後半に入ります。朝晩はだいぶ気温が下がるようになってきました。秋が深まってきていることを感じます。子供たちは、後期の目標を決めて、学習や児童会の活動などに一所懸命に取り組んでいます。中には咳をしたりマスクをしたりしている子も見られます。温かい服装をし、うがいや手洗いを励行して風邪をひかずに元気に過ごしてほしいものです。新型コロナウイルス感染症はもちろんのこと、インフルエンザの流行にも十分に気を付けていく必要があります。ご家庭でもお子さんの健康にご留意くださいますようお願いいたします。



6年生 修学旅行へ 10月21（水）・22日（木）

例年は5月頃に行っていた修学旅行ですが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、実施可能な時期と行き先を検討してきました。秋田県内の感染状況が比較的落ち着いており、訪問先でも感染防止対策が十分に行われていることから、いよいよこの21日に出発することとなりました。

行き先は秋田県内で、能代市、男鹿半島、大潟村、秋田市です。これまで行っていた仙台方面ではありませんが、秋田県内であってもきっと新たな発見ができるものと思います。感染防止に十分に取り組みながら、元気に、そして楽しく思い出に残る修学旅行にしたいと考えています。

6年生が修学旅行に元気に出発するためには、千畑小の全校の子供たち、また、ご家族の皆さんが新型コロナウイルス感染症に感染せず健康に過ごしていくことが大切です。引き続き感染予防のための取組を実践し、ご協力くださいますようお願いいたします。

日暮れが早くなりました。薄暮時の歩行は安全に注意して！

日没が早くなり、天候が悪いと6校時を終えて下校する頃には薄暗くなり始めています。この時間帯は車のドライバーが歩行者を発見しにくくなりますので、白っぽい服装をしたり反射材を付けたりするなどして、自分の存在が分かり易いようにすることが大切です。小さな懐中電灯を下校時に使うこともよいと思います。学校では、子供たちが自分の命は自分で守るという意識をもって、周囲に十分気を付けて安全に下校できるように指導を継続していきます。どうか、ご家庭でもご配慮くださいますようお願いいたします。

◆「餅米」をありがとうございました。

- 今年も、土崎北部の T. OO 様より、餅米60kgを頂戴しました。これから行う児童集会等の機会をとらえて、全校の子供たちみんなにいただくことができるようにしたいと考えております。本当にありがとうございました。

■ ノー電子メディアチャレンジデー（ミズモの日）の取組にご協力をいただき、ありがとうございます。どうか協力をよろしくお願いたします。

9月22日付けの朝日新聞に、右の記事が掲載されましたのでご紹介します。

ゲーム漬け 生活リズム狂い不登校

息子は中学3年です。中2まではあまり学校が好きではないとはいえ、休まず登校していましたが、コロナによる休校中にゲームばかりで生活リズムが狂い、勉強に身が入らず大量の宿題をこなせきれなくて、学校再開後から登校できなくなりました。自分に全く自信が持てない様子で、進学に前向きなクラスのメンバーにもなじめないようです。息子に、どのように接したらよいでしょうか。

神戸大・曾良一郎教授



精神科医。1957年生まれ。米国立衛生研究所(NIH)で薬物依存を研究。東北大医大で薬物依存を経て現職。2018年に神戸大医学部付属病院で、ワーカーら約10人態勢でネット・ゲーム依存の専門外来を開設。

ネットやゲーム依存の悪影響がある子どもたちにとって、学校の長期間の休みはよくない傾向があります。コロナの休校期間は3カ月及びました。外出もほぼされないなか、多くの子がネットやゲームで過ごしました。生活のリズムが乱れ、昼夜逆転の生活を送る。私がやっているネット・ゲーム依存の専門外来で治療中の患者も、回復が遅れたり、悪化したりしました。リセットする機会となる4月の新学期を迎えることが頭在化しました。

ネット以外の楽しみ 体験を

ネット・ゲーム依存は国内に少なくとも約100万人程度いると推計されます。世界保健機関(WHO)は昨年、ネット・ゲームにのめり込んで健康や生活に支障をきたす障害を初めて病名と認めました。①使用をコントロールできない②何よりも優先すべき楽しみになっている③社会生活に支障が出ている、といった項目が12カ月以上続いている状態としています。そうなる前に本人と親でよく話し合って、納得のうえルールを決めることが予防には重要です。そもそも、なぜ依存するのか。家庭や学校では満たされないものがあるからです。家庭生活に不満があったり、学校でいじめられていたり、ゲーム以外で安らげるもの、楽しめるものが見つかりつづけることが大事です。私が参加しているオンラインキャンプでは、離島でネット断ちして海で泳いだり釣りしたりします。ネット環境は一日1時間だけ。子どもたちの好みに合わせ、たくさん楽しいことを勧めてあげる。色々な体験をしてもらうことが大切です。また、こうした子どもたちは対面授業には出にくくても、オンライン授業だと意外と出席します。ネット・ゲーム依存の予防の観点からも、ICT(情報通信技術)教育を充実させることも必要でしょう。

この問題は日本では十分な認識が広がっていません。保護者も学校も、手探りの状況です。リスクのある青少年に対しては一定の指針があってもよいのではないかと思っています。家庭任せにせず、教育、行政、医療、ゲーム業界がよく連携しあって対応していくべきでしょう。

とができなかったのも大きいです。

一方、みんながみんな、休校でネットやゲーム依存になったかという点、そうではありません。学校が再開され、多くの子が通常の生活に戻っています。リスクがあるのは、以前から長時間ネット・ゲームを使っていた子です。コロナ禍で使用の歯止めがきかなくなると依存が重症となり、家庭内で暴力を振るったりお金を盗んだりする問題行動が顕在化しました。